

令和7年度事業報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

目次

1. 法人の状況に関する重要な事項
2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）
3. 事業報告付属明細書



1. 法人の状況に関する重要な事項

令和7年4月1日から令和8年3月31日に至る事業活動として、定款第3条に掲げる「実学の精神に則り、生物学的製剤等に関する研究・調査及び助成・顕彰等を行う等して、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」ことを目的として、定款第4条並びに平成31年4月1日付けで内閣府より変更認可を受けた公益目的支出計画に基づき以下の諸事業を行った。

本事業報告 段落番号	事業名	定款 第4条	公益目的 支出計画
1(1)	公益目的支出計画に基づく実施事業		
1(1)①	研究助成事業	(2)	公益1
1(1)②	顕彰事業	(2)	公益2
1(1)③	生物学的製剤等に関する研究・調査事業	(1)	継続1
1(1)④	予防衛生普及事業		継続2
1(1)④ア	医療技術者を養成する事業への協力支援	(3)	
1(1)④イ	奨学金給付	(6)	
1(1)④ウ	学術集会開催・後援	(7)	
1(1)④ウ	大学・研究機関の後援	(7)	
1(1)④エ	寄附講座	(7)	
1(1)④オ	印刷物の刊行	(7)	
1(2)	その他の事業		
1(2)①～④	医療機関等への協力・支援	(4)	
	地球環境保全に関連する事業	(8)	
	健康管理支援事業ほか	(9)	

定款第4条

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 生物学的製剤等に関する研究・調査
- (2) 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰
- (3) 医療技術者を養成する事業への協力・支援
- (4) 医療機関への協力・支援
- (5) 印刷物の刊行
- (6) 奨学金の支給
- (7) 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援
- (8) 地球環境保全に関連する事業
- (9) その他当法人の目的達成上必要と認める事業

2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

(1) 公益目的支出計画に基づく実施事業

① 研究助成事業

感染症領域及び血液領域の発展に寄与することを目的に、両領域の基礎的研究を対象とした以下の3つの研究助成事業を実施した。

- 「化血研研究助成」は、年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる日本の大学または公的研究機関等に所属する研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して助成している。令和7年度から、1件あたりの助成額を年1,000万円から500万円に、助成期間を2年間から3年間に変更し、更に助成件数も増やした。
- 「化血研若手研究奨励助成」は、次世代の研究者の育成に資するために45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募を行い、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究課題（研究テーマ）を持った将来有望な若手研究者に対して、1件あたり300万円を助成するもの。若手研究者への助成の充実を図るため令和7年度から助成件数を増やした。
- 「化血研ステップアップ研究助成」は、将来有望な若手研究者の更なるステップアップを目的に、令和4,5年度「化血研若手研究奨励助成」採択対象者を申請者資格として公募し、1件あたり年300万円を2年間助成するもの。令和6年度からから助成件数を徐々に増やし若手研究者への継続助成を充実した。

申請された候補者の中から、学識経験者18名で組織される助成選考委員会で選考を行い、理事会にて「化血研研究助成」10件（3.事業報告付属明細書表1）、「化血研若手研究奨励助成」20件（3.事業報告付属明細書表2）、「化血研ステップアップ研究助成」6件（3.事業報告付属明細書表3）を決定し、計1億2,800万円を助成し、ホームページに公開した。合わせて、令和6年度「化血研研究助成」対象者6名、および「化血研ステップアップ研究助成」対象者3名に、計6,900万円を助成金として支給した（研究助成金の支給総額：1億9,700万円）。

令和3,4,5年度「化血研研究助成」対象者18件、および令和5年度「化血研ステップアップ研究助成」対象者2件の研究報告書に基づき、助成選考委員による中間及び事後評価を実施し、各対象者に評価結果をフィードバックした。

② 顕彰事業

感染症領域及び血液領域の研究において大きな成果のあった者で、今後も研究の進展に貢献が期待される個人・法人・研究チーム・団体を顕彰する事業を実施した。

当法人が定めた計17の学会（表1）、並びに当財団の理事・評議員及び既受賞

者から推薦のあった者について、学識経験者7名で構成される顕彰選考委員会で選考を行い、理事会にて第7回『太田原豊一賞』顕彰者2名を決定（表2）し、ホームページに公開した。授賞者には、令和8年3月に副賞（1件 1,000万円）を贈呈した。

表1 推薦学会

・日本ウイルス学会	・日本エイズ学会	・日本感染症学会
・日本癌学会	・日本寄生虫学会	・日本血液学会
・日本血栓止血学会	・日本公衆衛生学会	・日本細菌学会
・日本獣医学会	・日本生化学会	・日本熱帯医学会
・日本分子生物学会	・日本免疫学会	・日本薬学会
・日本輸血・細胞治療学会	・日本ワクチン学会	

表2 第7回『太田原豊一賞』受賞者

氏名	所属 役職	受賞研究テーマ
飯田 哲也 先生	大阪大学微生物病研究所 所長 細菌感染分野 教授	腸炎ビブリオの病原性発現機構に関する研究
山本 雅裕 先生	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野 教授	宿主-病原体・腫瘍相互作用の免疫学的解明と革新的解析技術の開発

③ 生物学的製剤等に関する研究・調査事業

ア. 熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座

令和元年10月1日に熊本保健科学大学に開設した生物毒素・抗毒素共同研究講座において、生物毒素、抗毒素とその品質管理手法の開発研究等を継続して実施した。

イ. 熊本保健科学大学 品質保証・精度管理学共同研究講座

令和2年10月1日に熊本保健科学大学に開設した品質保証・精度管理学共同研究講座において、医薬品GMPと医薬品等の品質保証、ISO15189を中心とした医学検査所の品質管理の調査・研究を継続して実施した。

ウ. 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP講座

令和2年7月1日に東京理科大学薬学部社会連携講座として開設した医薬品等品質・GMP講座において、医薬品GMPを中心とした研究とその教育システムの開発を継続して実施した。

エ. 熊本大学 抗ウイルス療法・血液疾患研究共同研究講座

令和5年4月1日に熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターに抗ウイルス療法・血液疾患研究共同研究講座を開設し、新規な抗ウイルス療法およ

び血液疾患治療法の開発に向けた調査・研究を継続して実施した。

オ. 熊本大学国際先端医学研究機構 造血幹細胞工学共同研究講座

令和6年4月1日に熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）に造血幹細胞工学共同研究講座を開設し、造血幹細胞の維持増殖手法の開発研究を継続して実施した。

④ 予防衛生普及事業

ア. 医療技術者を養成する事業への協力・支援

使途を医療技術者養成と指定して、学校法人銀杏学園熊本保健科学大学に対し2,500万円を、国立大学法人熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）に対し1,500万円を寄附した。

イ. 奨学金の給付

熊本保健科学大学の学生に対し給付型奨学金「化血研奨学金」を実施した。医学部博士課程（感染症/血液専攻）の学生に対する給付型奨学金「化血研医学奨励奨学金」について、令和7年度より公募を全国に拡大した（博士課程奨学金一人当たり月10万円 年間120万円）。加えて、感染症/血液領域の研究目的で海外留学する若手研究者に対する「海外留学奨学金」を新たに開始した（給付額一人当たり500万円）。

「化血研奨学金」については、対象となる大学から推薦を受けた学生について、理事面接の上、6名の奨学金給付を決定した。また、「化血研医学奨励奨学金」及び「海外留学奨学金」については、応募のあった学生及び研究者について学識経験者6名で構成される奨学金選考委員会で選考を行い、理事会にて11名（8名+3名）を決定した。本年度「化血研奨学金」給付決定者6名及び令和6年度以前からの支給者26名、合計32名（表3）に対し、総額2,220万円を支給した。

表3 奨学金支給件数（令和7年度）

	熊本保健科学大学	熊本大学	九州大学	長崎大学	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学	琉球大学	件数合計
化血研奨学金	11 (6)	/	/	/	/	/	/	/	/	11 (6)
化血研医学奨励奨学金	/	11	3	2	12	1	1	1	1	21
全体合計										32 (6)

※カッコ内は、令和7年度に新規に支給を開始した件数

ウ. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

1. 阿蘇シンポジウム（主催）

令和7年8月1日及び2日に、熊本城ホールにおいて第45回阿蘇シンポジウムを開催した。テーマを「生体防御の恒常性—その維持と回復」とし、先端の研究者11名が講演を行った。シンポジウムはハイブリッド（現地開催+WEB配信）形式で開催し、参加者は312名（うち、現地参加者134名）であった。



【写真1】第45回 阿蘇シンポジウム

2. 肥後医育塾（共催）

熊本県民に対して定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに健康と医療を考えることを目的に、市民公開セミナー「肥後医育塾」を公益財団法人肥後医育振興会、熊本日日新聞社と共催した。令和7年度は、以下の3回の公開講座開催他の費用として、500万円を助成した。

開催日	テーマ	現地参加者
2025年7月13日	進化する診断テクノロジーの世界～医療現場の今と未来～	約100人
2025年11月15日	AI時代の最新医療～がん・心臓病・血液や神経の病気～	約130人
2026年3月22日	AI×ロボット×外科医療—進化する“未来の手術の姿”	約100人

3. 未来の研究者支援（寄附、協賛）

科学に興味を示す学童や、研究者を目指す中・高・大学生を育成・支援するため、以下のイベントに対して寄附、協賛を行った。

- ・ 「夢科学探検」(主催：熊本大学) 参加者 1,300 名：協賛 70 万円
- ・ 「柴三郎 Jr. プログラム」(主催：熊本大学)：寄附 50 万円
- ・ 「学びの祭典」(主催：熊本県教育委員会) 参加者 1,600 名、「科学展」(主管：熊本県立教育センター) 参加者 1,617 名：寄附 50 万円

エ. 大学寄附講座

1. 熊本大学フロンティアデータサイエンス化血研寄付講座

令和 4 年 4 月 1 日付で、熊本大学大学院先導機構にフロンティアデータサイエンス化血研寄付講座を設置した。令和 6 年 4 月 1 日に学内管轄が「半導体・デジタル研究教育機構」へと変更となっている。本講座では、健康・公衆衛生・生体・物質材料分野等の研究においてデータサイエンスを展開し、データサイエンティストの育成を図る。本年度は 3,440 万円を寄附した。

オ. 印刷物の刊行

当法人の事業内容を紹介する定期刊行物「OH!120」を、令和 7 年 4 月及び 10 月の 2 回、それぞれ 1,000 部発刊した。当法人関係者等へ郵送若しくは配布したほか、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

(2) その他の事業

① 健康管理支援事業

公益財団法人友愛福祉財団が実施主体である健康管理支援事業について、令和 7 年度の本事業経費の当法人分担金、14,949,045 円を支出した。

② 地球環境保全に関連する事業

水涵養の目的で、平成 9 年度及び平成 10 年度に九州森林管理局との分収造林契約に基づき熊本県山都町内大臣の国有林の一部に植林を行い、維持している。

③ 医療機関への協力・支援

当法人の理事 2 名が医療法人城南ヘルスケアグループの社員・理事に、職員 1 名が社員・監事に就任している。

④ 不動産賃貸事業

ア. 熊本県熊本市南区城南町舞原

年間を通じて、医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院に対し、その病院用地を賃貸した。

イ. 東京都港区白金台

賃貸用マンションの運営を継続した。

2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）

（1）内部統制システムの整備に関する決定の概要

令和7年度において、以下を整備した。

1. 財務分科会の設置（主要な役割は以下の通り）
 - ・ 年度資産運用方針・資産運用計画の検討・作成
 - ・ 年度資産運用報告の作成・評価

（2）内部統制システムの運用状況の概要

1. ボード会議

業務執行理事による協議の場としてボード会議を設け、理事会議題の論点の事前共有や、各種事業課題の進捗状況の確認を行った。

2. 企画調整室

リスクマネジメント、コンプライアンス推進に係る施策を適宜提案・実施し、内部統制システムの維持を図った。

3. 評議員会通信

評議員への事業活動に関する情報共有手段として「評議員会通信」を前年度に引き続き継続して発刊し、理事会審議内容等を定期的に共有した。（月刊）

3. 事業報告付属明細書

表 1	研究助成事業	化血研研究助成対象者
表 2	研究助成事業	化血研若手研究奨励助成対象者
表 3	研究自制事業	化血研ステップアップ研究助成対象者

【表 1】

化血研研究助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
石垣 和慶	慶應義塾大学 医学部	教授	病原性 T 細胞の抗原特異性を解明する革 新的 スクリーニング技術の開発
金 倫基	北里大学 薬学部	教授	腸内細菌叢の機能的制御による化学療法 関連感染症の 予防戦略の構築
塚崎 雅之	昭和医科大学 大学院歯学研究科	教授	新規遺伝子の発見によるマクロファージ 系列分化制御 機構の解明
野田 岳志	京都大学 医生物学研究所	教授	エボラウイルスの粒子形成機構の分子構 造基盤の解明と創薬開発への応用
野村 紀通	京都大学 大学院生命科学研究所	准教授	ウイルス膜蛋白質におけるクリプティッ クポケットの 構造生物学的解明と創薬応用
橋口 隆生	京都大学 医生物学研究所	教授	マイクロ流体デバイスを活用したウイル ス糖蛋白質の 動的構造変化解析技術の開発
廣田 圭司	京都大学 医生物学研究所	准教授	抗酸菌成分に対する 17 型免疫応答発動機 構の解明
藤永 由佳子	金沢大学 医薬保健研究域医学系	教授	in vivo における共生および病原性クロス トリジウム 目細菌の相互作用の解析
藤室 雅弘	京都薬科大学 薬学部	教授	カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製機 構の解明と 阻害化合物の開発
村松 正道	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター	部長	B 型肝炎ウイルスの発がん分子機序の解明

【表2】

化血研若手研究奨励助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
麻田 正仁	帯広畜産大学 原虫病研究センター	准教授	新興住血原虫感染症の病原体 <i>Babesia duncani</i> におけるゲノム編集法の確立およびその応用
生島 芳子	東北大学 医学イノベーション研究所	講師	骨髓腔に存在する脂肪細胞の機能解明と造血器悪性腫瘍治療への応用
牛丸 理一郎	九州大学 高等研究院	准教授	感染症治療薬創出を指向した酵素的スクレオチド構造多様化方法の開発
小原 乃也	京都大学 医生物学研究所	特定 助教	“結核特化型樹状細胞”の誘導機構の理解と応用による次世代結核ワクチンの創生
國本 博義	横浜市立大学 医学部	講師	がんゲノム異常に基づく高リスク骨髓異形成・骨髓増殖性腫瘍の分子基盤と個別化治療の研究開発
古賀 沙緒里	熊本大学 発生医学研究所	准教授	造血幹細胞の発生・分化過程を解析できる実験モデルの開発
材木 義隆	金沢大学附属病院 先端医療開発センター	特任 助教	HLA 欠失造血幹細胞による自然寛解を基盤とした再生不良性貧血の新規治療戦略
佐藤 和秀	名古屋大学 高等研究院・医学系研究科	特任 講師	時空間光細菌叢操作による口腔感染症治療
七條 敬文	熊本大学 大学院生命科学研究部	助教	免疫逃避機構の克服を基盤とした成人 T 細胞白血病に対する新規治療法の開発
菅田 謙治	熊本大学ヒトレトロウイルス学 共同研究センター	講師	HTLV-1 特異的 CD8T 細胞による自己免疫性神経疾患の発症機序の解明
田口 厚志	大阪大学 感染症総合教育研究拠点	特任 准教授	細菌表層合成を担う膜輸送体の構造機能解明と創薬展開
広瀬 雄二郎	大阪大学 大学院歯学研究科	准教授	M1UK 株 <i>Streptococcus pyogenes</i> の病原性および病態形成機構の理解
廣瀬 亮平	京都府立医科大学 大学院医学研究科	准教授	消化管オルガノイドを用いた接触感染の制御を目指した研究
藤巻 慎	熊本大学 発生医学研究所	准教授	血管由来因子による加齢性筋疾患の制御とその応用
藤本 康介	大阪大学 微生物病研究所	教授	強毒性 <i>Enterococcus faecalis</i> が GVHD の病態に与える影響の解析
松野 啓太	北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所	准教授	マダニ <i>ex vivo</i> 培養法を用いた簡便な新興ダニ媒介性ウイルスのベクター種推定手法の確立
村居 和寿	金沢大学 医薬保健研究域保健学系	助教	感染症における血中循環リパーゼの免疫調節機能とその生物学的意義の解明

本園 千尋	熊本大学ヒトレトロウイルス学 共同研究センター	准教授	プロバイオティクス誘導型免疫応答による ウイルス関連血液がん制御法の開発
薬師寺 文華	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科	教授	熱帯熱マラリア原虫に起因する重症マラ リアを標的とした革新的治療薬の創製研 究
余語 孝夫	東京大学 医科学研究所	助教	定量位相イメージングと深層学習による ヒト造血幹細胞の動態解析

【表 3】

化血研ステップアップ研究助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
芦田 浩	東京科学大学 大学院医歯学総合研究科	准教授	腸管病原菌による Effector-triggered immunity 制御機構の包括的解明
金山 剛士	東京科学大学総合研究院 難治疾患研究所	准教授	新たな造血幹細胞識別法を用いた造血恒常性維持機構の解明
木村 俊介	北海道大学 大学院薬学研究院	教授	呼吸器ウイルス感染後に誘導される病原性 M 細胞による二次性疾患発症機構の解明と予防戦略の創出
細川 裕之	東海大学 医学部	准教授	RUNX 転写因子を中心とした転写制御ネットワークによる T 細胞の運命決定とその破綻による T-ALL 発症メカニズムの解明
三宅 健介	東京科学大学 総合研究院	テニユア トラック 准教授	ヒト好塩基球分化における転写ネットワークの解明
横田 明日美	東京薬科大学 生命科学部	助教	定常時とストレス時の C/EBP β 発現制御と細胞系譜決定メカニズムの解明